

# 米

# シリア攻撃

国連安保理決議なし

米トランプ政権は6日（日本時間7日）、シリアのアサド政権が化学兵器を使用したと断定し、シリア中部の空軍基地へ59発のミサイルを発射しました。国連安保理の決議もない国際法違反の攻撃は、シリアの化学兵器問題の解決につながらず、6年に及ぶ内戦の終結をさらに遠のかせる暴挙です。

# 危険広げる「米国第一」の暴挙



7日、地中海の米海軍ミサイル駆逐艦から打ち上げられる巡航ミサイル（米海軍のウエブサイトから）

## 米国トランプ政権によるシリア攻撃について 志位委員長が談話

日本共産党の志位和夫委員長は7日、以下の談話を発表しました。

一、シリア北西部で、化学兵器とみられる攻撃で多くの犠牲者が出たと報じられるなか、米国のトランプ政権は6日（日本時間7日午前）、シリアの空軍基地へ数十発のミサイル攻撃をおこなった。

化学兵器の使用は、誰によるものであれ、人道と国際法に反する重大で許されない残虐行為である。しかし、国連安保理の決議もないまま、米国が一方的に攻撃を強行したことは、国連憲章と国際法に反するものであり、厳しく抗議する。軍事攻撃は、シリア内戦をさらに悪化させることにしかない。

一、米英仏は5日に提示した安保理決議案のなかで、シリアでの化学兵器使用について、国際的な真相究明を求めていた。米国の一方的な攻撃は、自らの主張にも反するものといわなければならない。国連を中心に、国際社会が一致協力して、化学兵器使用の真相をつきとめ、使用したものにきびしい対処をおこない、二度と使われることのないよう取り組みを抜本的に強めることこそ必要である。

一、とりわけ憂慮されることは、米国トランプ政権が、今回の攻撃を、「米国の安全保障上の死活的な利益にかかわる」と合理化していることである。「米国第一」の立場で一方的な軍事攻撃を合理化する態度はきわめて危険であり、絶対に認められない。

# 対米追従 きわまる

## 安倍政権ただちに支持表明

トランプ米政権のシリア攻撃への賛否をめぐり国際社会で大きな議論がわき起こるなか、安倍首相はトランプ大統領の声明からわずか4時間半後、「米国政府の決意を支持する」と表明しました。国際法に反する攻撃を

首相が支持するのは重大です。

日本政府は戦後、ベトナム戦争やイラク戦争などの侵略戦争をはじめ米国が引き起こした戦争に一度たりとも反対したことはありません。安倍政権の対応は、歴代政権からの対米従属が極まったものです。